

令和4年度 学校関係者評価実施報告書（学校運営協議会）

学校番号	15	学校名	東部特別支援学校伊東分校	校長名	長崎 良夫
------	----	-----	--------------	-----	-------

【関係者評価】 A 4点、B 3点、C 2点、D 1点で数値化、合計点（15点以上A、12点以上B 9点以上C それ未満D）で表記

評価	基準	評価	基準
A	十分目標を達成することができた。	C	あまり目標を達成することができなかった。
B	おおむね目標を達成することができた。	D	ほとんど目標を達成することができなかった。

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

(1) 学習環境を充実させ、健康で、安全・安心な学校生活を確立する。（守る）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	安全・安心を守る学校組織の機能の充実	基本的な感染症対策が周知され児童生徒・保護者・教職員が予防方法を知り実行できた。	A	A	・廊下の掲示物・マニュアルが分かりやすい。児童生徒の手洗い・消毒等も十分習慣化されている
		研修や実践的な訓練を通して、発災時の自分の役割や行動が分かり、対応力を身につけることができた。児童生徒が実践的訓練を通し防災について学ぶことができた。	A	A	・防災訓練で教員が児童生徒の安全確保上留意している点を具体的に教えてほしい
イ	創意工夫による学習環境の整備	過去の事例やチェック表の記述を参照し、危険予測箇所まで含めて点検が行われ必要箇所は速やかに改善できた	A	A	・教員が細かく危険予測を行った記録が素晴らしい。 ・記録時に注意箇所をレベル別に色分けするなど一考。
ウ	人権を尊重する教育の充実	年5回の人権チェックで教職員が言動を互いに確認し、人権に配慮した改善がなされた。児童生徒が各自の力に応じ、生活目標を意識して行動するあらわれが見られた。	B	A	・個々に向き合う指導の様子がたいへん良いと感ずる。 ・保護者会などを通じて、保護者とも人権意識などについて情報交換してもよいのでは。

(2) 専門性に基づく指導をとおして、自己実現に向けた教育の充実を図る。（育む）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	個のニーズに応じた指導の充実	8割以上の教員が、校内の自立活動研修・療育支援・教材教具展を個別ニーズ対応のため、参考にすることができた。	B	A	・自閉的傾向のある児童生徒も多い中で、子どもたちは落ち着いた雰囲気の中で学習に取り組んでおり個への配慮の成果を感じた。
イ	(7) 情報機器を有効に活用した学習	Ipadの活用方法を検討したり、研修や活用事例紹介を受けたりすることで、授業や業務での情報機器活用頻度が広がったと考える教員が8割以上になる。	B	A	・校外学習事前学習での現地との交流、転校生との交流やeスポーツなど様々な場面に情報機器の活用が広がったと感じた。
	(1) 専門性向上のための研修	実態把握を基に、学習指導要領を踏まえた授業づくりや授業改善を行うことで、児童生徒の力が向上した。研修によって専門性向上に役立ったとする職員が8割以上となる	B	A	

ウ	(ア) 9年間の系統性を考えたキャリア教育	児童生徒がキャリアパスポートを通して次年度自分が学びたいことを考えることができた。	B	A	
	(イ) 関係機関と連携した進路指導	関係機関と深く連携することで適切な就学支援につなげることができた。	B	B	・ 中学部では事業所体験の範囲をもう少し広げてほしいのではないか。

(3) 「地域の中で育つ児童生徒、地域の中で役割を果たす学校」をめざす（つなぐ）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	相互理解のための学校間交流	相手校と、伊東分校の両方の児童生徒にとって交流する場面や良いあらわれが見られた。	A	A	・ 今後、距離が離れても学校間でワークショップなどを行い共同作品作りなどができるのではないかな。
イ	地域資源を活用した分校理解推進	学習の場や方法に工夫や広がりが見られ、児童生徒が地域の中で学ぶことができた。 地域の分校に対する理解が深まった	B	A	・ 地域との関わりを深めるため、交流イベントや地域企業での体験活動などもできるのでは。
ウ	地域のニーズ把握と教育力向上の支援	地域の支援ニーズが確認され、必要な支援依頼に校内資源を活用して対応できた。	B	A	
エ	令和4年度末に向けた交流計画検討	西小学校・北中学校や地域との共生共有の方法が具体化した。	B	A	・ 本年度直接交流が再開できたのは良かった。来年度以降もぜひ交流が続けられることを期待している。

(4) 教職員が互いに支えあい高めあい、働きやすい環境づくりに努める。（業務改善）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	不祥事要因の分析によるコンプライアンス研修充実	不祥事要因と防止のための注意点が共有され不祥事発生がなかった 交通安全のための注意点が共有され、事故事案が低減した。	B	A	
イ	移転を考慮し学校行事等の見直し	学校行事の精選および内容の具体的見直しが図られた。	B	A	
ウ	会議の見直しと時間管理の徹底	会議時間原則 60 分以内、資料事前配布等により児童生徒や業務に向き合う時間が充実した。 業務における I C T 機能が整備され、効率化された。	B	B	・ 会議テーマ、目的、時間を明確に事前に提示する。情報機器を有効に活用し必要な情報を共有することで回数・時間の短縮を図ってほしい。
エ	新校移転実行委員会の創設	定期的な委員会開催により、移転スケジュールが明確になり、計画が進められた	B	B	・ 新年度に向けより業務が多くなるであろう。仕事の精査や順位づけが重要である。